

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームあかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0175800325-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあかるい家は、国道より少し奥まった住宅街の中にあり、静かな環境と自然が多い所にあります。春から秋にかけて散歩したり畑作業を行い、皆様には季節の移り変わりを感じていただいています。地域のお祭りに出る神輿見物や、施設で行っているイベントは中止となっておりますが今年度はクリスマス会は施設内で入居者様と職員だけで行われました。お正月の初詣、どんど焼きは自粛しておりましたが、室内で行えるゲームなどを行い楽しんで頂いています。ご家族様・地域の皆様・関係機関の方々のご指導・ご協力いただきケアを行わせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

由仁町のJR駅近くの住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームである。敷地内には畑やあずま屋があり、気軽に畑仕事や外気浴を楽しむことができる。室内は回廊式で浴室やトイレが比較的広く、居間と食堂が一体的で大きな窓があり明るい。観葉植物を置き、家庭的な雰囲気としている。居間に大きなソファを複数配置し、利用者全員が一緒に寛いでいる。手近な場所に遊び道具なども用意している。感染症流行により地域との交流が減っているが、元々は地域との関係が密接で、事業所の行事に住民が参加していた。現在でも年越し蕎麦の差し入れを受けたり、散歩の際に挨拶を交わしている。家族への情報提供の面では、写真を載せた個人ごとのお便りを毎月作って提供し喜ばれている。ケアマネジメントの面では、フェイスシートやアセスメントシートを定期更新し、さらに内容の充実を目指している。また、介護計画を適切なモニタリングや評価のもと作成している。食事の面では、彩りや品数が豊富な美味しい食事が提供され、利用者も準備や後片付けを手伝っている。外出支援は、日常的な散歩や外気浴が行えており、花見や紅葉狩りでの外出、定期的な通院など、外出の機会が確保されている。快適な環境と行き届いた支援のもと、ゆったりと過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が仕事をしていて一番目につく食堂のカウンター上部に掲げ目することで確認を行っています。	4項目の理念の中に「地域とともに」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を食堂の壁上部に掲示し、職員が日々意識できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣から、コロナ過でも季節的にお花を頂いたり社協様からの声掛け、贈り物を頂いたり町内会費集金時や回覧板をまわす際コミュニケーションをとっています。	感染症流行前は事業所の夏祭りやクリスマス会に住民が参加していた。感染が落ち着いたらこれらの交流を再開したいと考えている。現在も、散歩の際に住民と挨拶を交わしたり、手作りの年越しそばの差し入れを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で中止にはなっているが過去に地域の中学校の体験学習の受け入れを行い、認知症への理解や学習に生かしてきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を10月と2月に行い、ご意見や情報の共有を図っております。	運営推進会議は年2回の開催にとどまっている。町役場、町内会長、民生委員、家族、法人代表などがメンバーとなり、感染症、外部評価をテーマに話し合っている。議事録を家族に送付しているが、テーマに関する資料は添付していない。	年6回を目標に運営推進会議を開催することを期待したい。また、テーマに関する資料を、参加できなかった家族に議事録と一緒に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・病院・消防とは認定調査、個々の手続き、受診、入退院、火災訓練等に助言・協力・指導を頂きケアの向上に努めております。	役場職員が運営推進会議に参加するほか、管理者が役場に直接出向いたり電話で手続き等の相談をしている。いつでも連携できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象行為の学習を継続。学習会や研修で学び日々のケアに役立てております。	身体拘束を行っておらず、法人のグループホーム合同で年4回、身体拘束適正化に関する委員会を開催している。また、年2回以上、身体拘束に関する研修を行っており、今後の研修記録は身体拘束を主題として作成する方針としている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で皆様に不快な言動や行動がないようスタッフで話し合い考えケアの向上に努めています。		

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同制度について職員が学ぶ機会が設けられていないのが現状。今後は研修や勉強会を設けて理解を深めていけるよう努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては事前に家族立会いのもと十分に説明・理解・納得して頂けるよう努めている。また意見箱を設置する等、家族が気軽に不安や疑問を伝えられるような環境を整えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の場における入居者の意見や、ご家族の意見をキャッチしスタッフへ浸透反映させるように努めています。また運営推進会議等においても外部の方との意見交換を行い運営に反映しています。	家族の来訪時や電話で話した際に意見を聞き、得られた意見を日誌に記し共有している。家族の来訪が増えれば、以前使用していた「家族会連絡つづり」の活用を検討している。毎月、個人ごとのお便りを作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送りに加えて常時スタッフの意見や提案に耳を傾け、スタッフそれぞれが工夫したことを現場で反映できるよう努めています。	月1回ミーティングを行い職員同士活発に意見交換している。職員の意見を参考に早番の開始時刻の変更などを行ったことがある。職員はお便り作成や行事、室内装飾などを分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各事業所を回り直接スタッフの勤務状況や職場環境の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を設け質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	由仁町ならびに由仁社協主催の会議や講習会に参加し意見交換や交流をしていたがコロナの影響により難しくなっている。		

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は不安で落ち着かない事が多いため、時間をかけてお話を聞き原因を探り、施設内での生活に慣れていってもらいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で家族が困ったり不安だと思っていることを伺い、どのような対応ができるか話し合いの場を設けている。本人の希望関係・家族の希望も十分に伺い、ケアについて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向に沿って最優先をきめフォーマルインフォーマルサービス含めて対応を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の意欲・興味・行動範囲を見極め一緒に行って頂き喜びを分かち合える関係作りにも努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を十分把握し状況を連絡し合い、プランに反映させ了承していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、親戚家族は玄関先での対応で、それ以外の方はお断りが続いております。	感染症流行前は3名ほどの利用者に知人が来訪していた。流行収束後にまた来てもらえるようにしたいと考えている。町立病院への受診の帰りに、利用者が懐かしいと思える場所を通して帰って来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の入れ替わりにより、前より入居者様同士でお話しされていることが多くなっています。レク等で皆様一体になって楽しませております。		

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内に住んでいるご家族も多いため、利用終了後も外で会うこともあり、その時はお話しをして近況を聞いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お化粧品が好きで化粧水を希望される方、元美容師の娘様に髪を切ってもらいたいと、願われる方コロナ禍で難しい時もありますが達成された時の皆様の笑顔は最高です。	半分ほどの利用者は意向を言葉で表現でき、難しい場合も表情などから把握している。フェイスシートやアセスメントシートに生活歴や趣味・嗜好を記載しており情報の更新も進める意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活から継続して飲んでいた物を、これからも続けたいとスタッフに相談があり現在、歩行が困難のためスタッフが代行し継続されております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人で新聞・雑誌・テレビ観賞を好まれる方には静かに見守りをさせて頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人に聞きながら日々の介護の課題をスタッフと共有してアイデアを出し合いプランに繋げています。	3か月ごとに介護計画を更新している。モニタリングシート、評価表をもとに会議で意見交換し、次の計画を作成している。日々の記録に計画目標を印刷して実施状況をチェックしているが、気づきや変化などの記載は少ない。	日々の記録の「モニタリング」欄を使って、計画目標に関する職員の気づきや利用者の変化などを具体的に記載し、計画更新に活かすことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書と連動した個別の生活行動記録に実践・結果・特変等の情報を連絡ノートに記載しスタッフに周知。ミーティングで話し合いプランに反映。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて家族・医療・地域等に、ご協力頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様との関わりは現在も玄関先だけの、ふれあいとなっておりますが、互いの安否は確認できています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけを継続。お一人家族の意向で訪問診療を選択しています。町内はスタッフ同行。病状により、ご家族様と行くこともあります。	1名がかかりつけ医による往診を受け、その他は協力医療機関である町立病院への通院を支援している。受診内容を往診記録、通院記録に記載し共有している。	

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制での連絡、通常は週1回の勤務、月1回の内部ミーティングなどで、相談・処置指導・助言いただきながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的受診時医師・看護師とのかかわりを意識して重ね、入院後は面会に本人・医師と行い経過の聞き取り何気なく受け入れ態勢をアピールし、退院時期を促すように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針」の説明に契約書で同意を得ている。過去に三名の方の看取りを訪問医師とのご協力させていただいた。その時期があったら新たな気持ちで支援させていただきま	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って事業所の方針を説明し、同意を得ている。できる範囲の看取り対応を行う方針とし、最近でも2名の看取りを行っている。看取りに入る際は勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・転倒等の事故発生後はその月もしくは次の月のミーティングで資料を用意してスタッフ同士で情報を共有し、備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震を想定した避難訓練を行っています。非常時に備えた備品の確保・管理するリストを作成。町内で指定された避難場所のスタッフへの周知等すぐにわかる状況に揭示しています。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防の協力のもと行っており、感染症流行前は住民の参加も得ていた。救急救命訓練は実施後3年以上経過している。地震時の初期対応やケア場面別の対応についての話し合いは特に行っていない。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。また、地震時の初期対応やケア場面別の対応、危険箇所の有無等について、職員間で定期的に確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、よそよそしくならず親しみを持って相談していただける様な関係性を築いております。	利用者は苗字に「さん」付けで呼びかけている。年1回、接遇の勉強会を行っている。申し送りは事務所で行い、個人記録も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話を傾聴する機会を作り、会話の中から本人の希望を引き出し自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の入れ替わりにより、前より入居者様同士でお話しされていることが多くなっています。レク等で皆様一体になって楽しませております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際はご本人に選んでもらうようにしております。意志表示が難しく着衣の厳選が困難な方はスタッフが用意しています。		

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜・魚などが取り入れられ、行事にそったメニュー・家庭菜園の時期には収穫・下処理も一緒に行う。お膳・箸・配膳・食器拭き・お盆拭き・テーブル拭き等出来る力をお借りして皆様と行う。	法人作成の献立で、旬の食材を使い彩りの良い美味しい食事を提供している。利用者と一緒に好み焼きなどを作ることもある。誕生日は、職員がデコレーションしたロールケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患と年齢、食欲を把握し水分量、食量、職員統一して提供。日々の記録記載。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄ケア支援、全介助はガーゼ、スポンジでのケア、自立の方も確認・声掛け行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は小パットを使い排泄パターンをそれぞれ把握しトイレでの排泄を重視しております。	自立している利用者も数人いるが、全員の排泄を記録して適切な声かけや誘導を行っている。昼夜ともに可能な限りトイレでの排泄を支援している。時間帯や本人の状態に合わせて排泄用品の種類を調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表活用し、個々の排便の状態を把握し情報共有している。食材・献立・おやつ・水分量に気を配るも自然排便困難時は担当医から処方を受けている下剤で調整		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外の毎日、午後から週2回入浴して頂いている。現在拒否する方はいない。	利用者によりある程度入浴日は決まっているが、本人の意向で曜日を変更することもある。好みの湯加減で、入浴剤などを利用して入浴を楽しんでいる。シャワー浴や同性介助などの希望にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間で時間までテレビを楽しむ人、部屋でテレビを見ている人、遅くまでトイレに何往復もされる人等それぞれの安心される時間があり見守りながら確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・用法・用量を把握し、処方内容・副作用は受診記録で確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域から農家の方も多いため春先から家庭菜園の苗植え・水撒き・草むしり・収穫までをお手伝いして頂き屋外を活動で気分転換をしていただいております。		

グループホームあかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ数年はコロナのため外出は控えておりますが、少数でのドライブ・散歩・ゴミ出し・日向ぼっこ・定期受診等の近間の外出で我慢して頂いております。	天気の良い日は周辺を散歩したり、庭先のあずま屋でおやつを食べることもある。利用者と一緒に、畑の草むしりや野菜の収穫を行っている。ドライブで白鳥を見に出かけたり、栗山公園で桜や紅葉見学を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との連携で、現在は小銭でも預かりとさせていただきます。問題が多く発生したため。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話でお話することが可能な方は数名おられるが、希望はされず、ご家族が来られた時に玄関での面会をされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室は居間などから見えにくい場所にあり、居間・廊下に面している居室は暖簾でプライバシーに配慮。居間の大きな窓から見ると木の木は、春から夏には芽吹き・開花、秋からは葉が落ち、冬には雪景色が見え季節を感じる事が出来る。	室内は清潔感のある広々とした造りで、観葉植物や花、絵画などが飾られており家庭的な温もりが感じられる。窓から温かな日差しが注ぐ居間で、利用者はテレビを見ながらゆっくり寛いでいる。オセロゲームや新聞、週刊誌などを準備して利用者が自由に楽しめるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にあるソファやダイニングテーブルで入居者様がやりたい事を思い思いにされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの馴染みの寝具類、生活用品、家族写真、仏壇位牌等安心されて過ごされますように、お部屋の入口には暖簾を下げプライバシーに気配りさせて頂いております。	居室の入り口に本人の写真が飾られている。クローゼットとベッドが備えられた室内に、馴染みのタンスや鏡、好きなぬいぐるみなどを持ち込んでいる利用者もいる。カレンダーや家族の写真を飾り、その人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで障害物は置かず手すりを壁側にぐるりと配置され安全な歩行が可能、車いすも自由に行き来できます。居間は広く窓は大きく日差しが射し込んで明るいです。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあかるい家

作成日：令和 5年 3月 30日

市町村受理日：令和 5年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年2回の開催に留まっている運営推進会議の回数と、運営推進会議に参加できなかったご家族へ議事録のみの送付で、テーマに関する資料は送付が出来ていなかった。	年6回の運営推進会議の開催できるように働き掛ける。また運営推進会議に参加できなかったご家族へのテーマ資料の送付も行うようにする。	引き続き年6回の運営推進会議の開催ができるように働き掛け、運営推進会議開催時は翌月のお便りに議事録だけではなくテーマ資料も送付するようにします。	1年間
2	26	日々の記録に計画目標を印刷して実施状況をチェックしているが、気付きや変化などの記載が少ない。	モニタリング欄を使用して、職員の気づきや利用者様の変化などを具体的に記載をして介護計画の更新時に活用できるようにする。	モニタリング欄を活用して日々の変化、気付きを書き込み介護計画の更新時に活用できるようにしていきます。	即日
3	35	救急救命訓練の受講状況が3年以上経過している。地震時の初期対応やケア場面別の対応についての話し合いが特に行っていない。	救急救命訓練に関しては各職員が受講できるように本部への働きかけをしていく。地震時の初期対応、ケア場面別の対応を職員間で確認していく。	救急救命訓練の実施している消防署などから情報を収集し受講できるようにいたします。また、地震時の初期対応、場面別の対応に関する資料も揃えて、職員間の確認をしていきます。	1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。